

毎年、母の日には町のあちこちで花を持った人、特に子どもやそのお父さん、若者など見かけ、とても微笑ましい気持ちになります。小さな兄弟がスーパーや花屋さんでお花を選んでいたり、お花を持って小走りにかけてく様子を見て、ああいいなあと思い、もうお母さんは何て幸せな気分になるだろう...と想像するのでした。普段なかなか感謝を伝えることができないからこういう機会にこそ「ありがとう」を形で表すのはとっても良いことだと思ひ、世のお父さんはそれを子どもに教えるべき!と思うのです(笑)。そしてもちろんその逆もです。(父の日は母の日に比べどうも薄れがちですが...) ちなみに私はまだ母の日に花をもらったことがありません!だから花を持って人達を見かけると「いいなあ」と羨ましく、ちょっぴりさびしい気持ちになるのでした...が、今年の母の日は朝から子ども達が洗濯を干したり食器を洗ったりお手伝いをしてくれてとても嬉しかったです。「手伝ってくれオーラ」を出していたせいか...?!長男が弟らに指示したり率先してやってくれました...。そして夕食は米を炊くところから西門善まで長男に任せてみました。父と母どちらも特に手出し口出しせず、私はその間にお風呂に入らせてもらい。できた夕食は具沢山の味噌汁に豚丼。どちらもとても美味しくて、ああ

まきばでひとやすみ



こまで一人でできるようになったのか、としみじみ成長を感じました。9年程前、未知の世界だらけの男子の子育てに戸惑い、



落ち着きのなさに悩み、どこからともなく聞こえてくる、「3才になったら楽になるらしい」「5才過ぎたらグッと楽になるらしい」というわさにしがみつき「楽になる日」を心待ちにしていたことを思い出します。結局「楽になった」という実感などあまり感じず(気付かず)いたけれど、いつの間にかこんな頼もしくなっている姿に、こうして少づつ自立していくのだなあと一歩のさびしさを覚えたのです。早く大きくなってほしいと思ってたあの頃を少し悔やんだりするのです。この次の日、彼は道端の草花ですきなブーケを作ってくれました。母の日のものかどうかはわからないけれど立派な花束よりずっと嬉しく思いました。